

石川県を訪ねてきました

～～ 能登半島地震被災地の様子 ～～

今年早々の能登半島地震で被災された皆様には、改めて心よりお見舞い申し上げます。

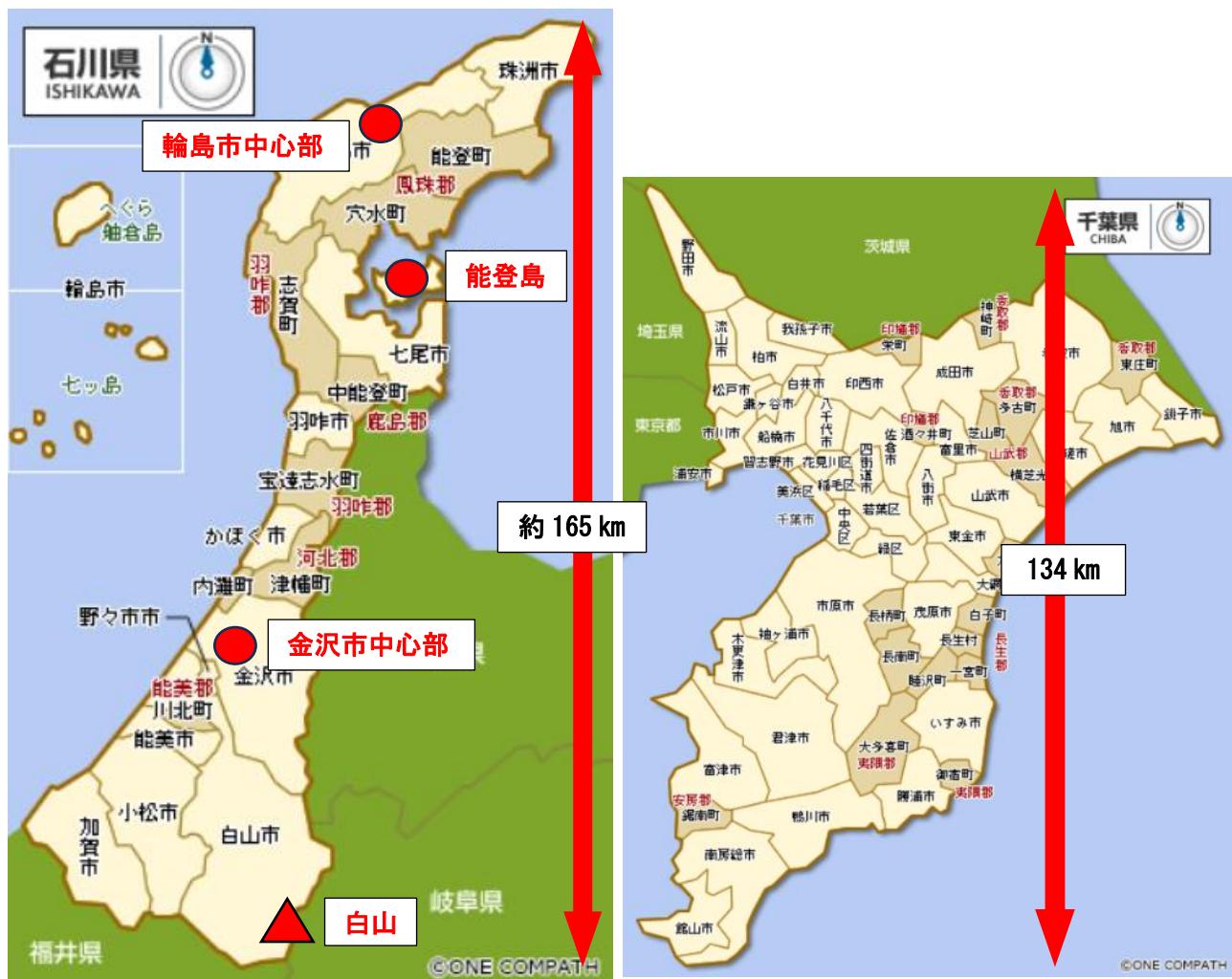
この度、一度は訪れたかった憧れの白山の登山とともに、思い切って能登半島まで足を伸ばしてみました。ここでは、筆者が見聞きしてきた被災地（の一部）の様子をお知らせしたいと思います。被災地の現状の詳細についてご関心のある方は、是非関連のサイトなどでお確かめください。

1 能登半島と房総半島

そもそも、改めて調べてみると、南北距離が、千葉県より石川県の方が長いとは思ってもみませんでした。下の図は、複数のサイトから図やデータを収集して編集したものです。ここで気を付けていただきたいのは、千葉県の 134 km は某サイトによるものですが、同じサイトで石川県は 199 km となっています。別のサイトで調べてみると、能登半島の北方に輪島市に属する島（岩礁）が複数あって、199 km にはこの島まで含まれているようです（当然と言えば当然）。そこで両県の地図をほぼ同じ縮尺にして比例計算をしてみたところ、下図のとおり、およそ 165 km と言う数字が出てきました。

金沢市役所から輪島市役所まで、ヤフーマップで検索してみると、最短最速の『のと里山海道』（無料自動車専用道、詳細は後述）経由で、約 112 km 2 時間 30 分と出てきます。参考までに、同様に千葉市役所から館山市役所までは、京葉道路・館山自動車道経由で約 84 km 1 時間 29 分です。

能登半島地震に関するニュースなどでは、金沢市内から被災地までの距離の遠さや所要時間の長さ、そして道路事情が、復旧作業や復興の大きな妨げになっていることを報していました。この度の訪問では、何よりも先ずは、そのことを実感、体感せずにはいられませんでした。



2 「のと里山海道」

延長約90kmの、金沢市と能登半島とを直結する自動車専用道路（無料）です。昭和57年に全線開通し、石川県民の生活や産業活動、観光に大きな役割を果たしてきました。

この度は、至る所で、道路そのものの崩落のため迂回路が設置され、金沢市からの前半は、ほぼ高速道路なみの走行でしたが、後半は対面通行部分が多くて、40km規制部分がほとんどでした。

半島の各方面へ向かう一般道は、通行止めのままの箇所も何ヵ所かありました。周囲の崖の崩落箇所が度々目に留まって、道路そのものの状況と併せて、地震のものすごさを語っていました。

3 輪島市内

テレビで見たビル倒壊現場（下写真1）や、朝市の火災現場も、 金沢駅 金沢市
復旧作業が行われている様子はありませんでした。下写真2は、川向うが朝市の被災地で、橋は通行止めのままでした。下写真3は、写真2と同じ場所から反対側を撮ったものです。倒壊家屋に潰された自動車がそのままの状態でした。市内の信号や電信柱なども傾いたままのものが目立ちました。

一部の食べ物屋さんなどが営業している様子を見て、少しだけホッとする思いがしました。

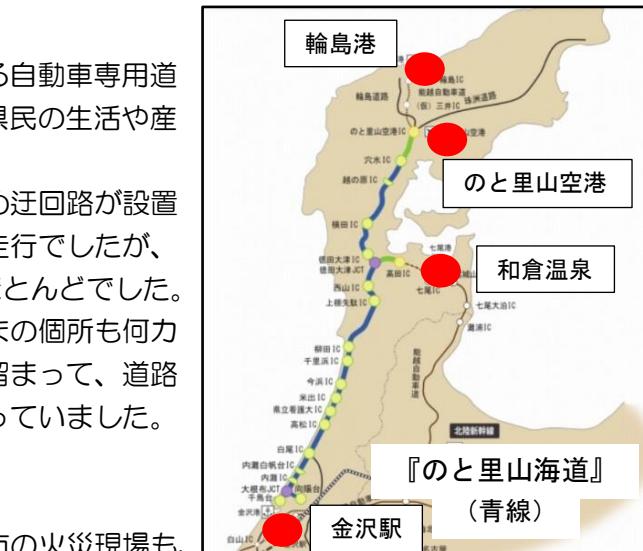


4 白米（しろよね）千枚田

輪島市中心部より珠洲市方面に約11kmほどのところにあります。これより珠洲市方面は、関係者以外通行止めとなっていました。

日本の棚田百選、国指定文化財名勝に指定され、奥能登を代表する観光スポットとして親しまれてきました。

地震によって約8割が被害を受け、現在クラウドファンディングを立ち上げるなどして、復興のための活動が行われているそうです



5 穴水駅のポケモン号

途中寄った穴水町（輪島市南東隣）の穴水駅（のと鉄道、道の駅「あなみず」併設）では、ポケモン号が停車していて、多くの家族連れが訪れ、乗車していました。沈みがちな被災地の空気を明るくしているように（勝手ながら）思いました。

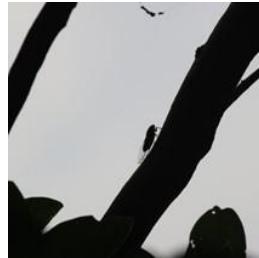
(記: 茂原市 望月力智)

雑木林の片隅で、夏の終わりを感じ、小さな秋を見つける

連日35°Cを記録する猛暑日が続いているのですが、フィールドでは、確実に季節が進んでいます。

季節の進み具合を感じるのは、雲の形、植物の実りなど人それぞれだと思います。私は、出会う生き物たちで感じています。8~9月は、夏の終わりと秋の始まり（小さな秋）を愉しむことができる季節です。

＜夏の終わりを感じる＞



夏の終わりを感じる
クモの網にかかるて絶命した姿に夏の
終わりを感じます。



ヒグラシ



オオミズアオ

夏の終わりを告げる使者：ツクツクボウシ／ツクツクホウシ



8月中旬ごろから現れます。鳴き声には、リズムがあり、イントロ～Aメロ～サビ～エンディングのように構成されています。小学生のころ、この鳴き声が夏休み終了間近のお知らせに聞こえました。

＜小さな秋を見つける＞

1. 色づいたカトリヤンマ



7月：地味な色



8月：鮮やかな色

秋に色づくのは、赤トンボだけではありません。カトリヤンマは、7月上旬ごろから現れます。8月中旬には鮮やかな色になります。日中は、暗いところに止まっています。暗いところにいるので、撮影に苦労します。

メタボ一歩手前の私には、「細く、くびれた腰」がとても羨ましいです（笑）。

2. 秋の定番「赤トンボ」



マユタテアカネ

マイフィールドで、見かける赤トンボ（正確にはアカネ族）は、ナツアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、マユタテアカネです。この中で個体数が多いのが「マユタテアカネ」です。8月下旬に赤く色付いた個体を見かけたとき「もう真っ赤だね」と話しかけてしまいます。



名前の由来：
顔にある黒い紋が、「眉を立て」たように見えることに由来しています。



色づき始めた「コノシメトンボ」

成熟したオスは、全身が真っ赤になります。しかし、この個体は、胸が、赤くなっています。季節が、夏から秋へ進んでいるのを感じます。



ノシメトンボとの区別方法
ノシメトンボ（オス）は、全身真っ赤になりません。
腹のみが、暗い赤になります。

3. 草むらの紳士たち



私は、カマキリやバッタのオスたちを、スマートな体と長く突き出た羽を燕尾服に見立てて「草むらの紳士」と呼んでいます。正装したオスたちの姿に秋を感じます。

庭の小さな秋：2024年8月18日



庭に秋の七草の一つである「オミナエシ」を植えています。8月中旬頃、黄色い花が咲き始めると秋の始まりを感じます。

オミナエシの花や葉は、独特の匂いがします。この匂いに誘われて多くのムシがやってきます。このムシたちを狙って「ハラビロカマキリ（在来種）」もやってきます。今年は3頭（幼虫1頭、成虫メス2頭）確認しました。ハラビロカマキリは、常連なのですが、今年も確認出来て安心しました。

西野 孝法（千葉市）

チュウサギの群れを追って

私が住んでいる佐倉市の辺りでは印旛沼を干拓地して出来た広大な水田でチュウサギの群れを見かけます。春の田起こしではトラクターの後を追い、稲刈りが始まるとコンバインの周囲に集まってきて餌を探します。まれには100羽を超える大群になるので、この時期は農道を走り回って群れの写真を撮っています。かつてはアマサギも同様の群れが見られましたが、今では激減して夢のまた夢です。いつかチュウサギも同様の道を辿るかも知れません。写せるうちに写して置こうと思うのは遺影の準備をしているみたいで複雑な気分ですが・・（下の写真は今年だけの撮影ではありません） 佐倉市 坂本 文雄



4.11 桜が終わり田起こしの頃に群れで渡来



6.11 繁殖期のペア レース状の飾り羽が目立つ



6.13 水田で餌探し カエルや昆虫が好き



6.27 子育て 千葉市千城台のコロニーにて



8.21 稲刈りの頃 印旛沼の干拓地に大集結



9.28 そろそろ渡去か 10月にほとんど見ません

ハスな構えを正面向かす

7月27日（土）午前10時から21世紀の森と広場で「探検ラリー」の準備と下見をしていました。朝から猛烈な暑さでした。13時スタートに向けてチラシを用意し、集いの広場に出向きましたが、猛暑のせいかテントを張っている家族は5張ほど、パークセンターの展示室に集まるお客さんもまばらでした。参加者が集まるかなと心配しつつ、開けてみれば参加者は全部で38人（うち子ども21人）でした。

午前中にハスのふしき探検のポイントに準備品としてバケツとスプレーを置きにいったところ、保護者が7、8人固まっていました。その日、博物館友の会主催の「コメ作り」隊が水田で草取りをしていました。作業するのは子どもたちと友の会メンバー、保護者が見守っていました。炎天下で子どもたちの様子を眺めしていました。（藤田も友の会のメンバーです）

「ハスのふしき探検」のリハーサルにちょうどいいかなと思い、手持無沙汰な保護者に向けてデモンストレーションしてみました。

ハスの葉に水をスプレーしてみると水が水玉状になって転がり落ちていきました。水玉状になって転がるところまで見せて、「実はコロコロと転がる性質があるものに利用しています。ご存じですか？」と問い合わせました。そっぽを向いていた方々がこちらを向き始めました。

そこで答えあわせです。「水玉状になって葉の表面の汚れとともに転がり落ちていく現象をロータス効果と言ってトイレの便器や汚れの付きにくい外壁に利用されています。」と説明すると、ハスの葉に近づいてくる様子でした。ハスの葉をさわり、スプレーに手が伸びるところでした。「しめた」と思いました。

小学生の草取りの作業が終わるのをじっと待っている皆さんには、興味がないだろうと思ったのですが、葉の上を流れ落ちる水玉、ロータス効果、汚れの付きにくいものへの利用といった点に惹きつけられたのか、少し動きを見せたことが少々満足でした。横目で見ていた「ハスのふしき探検」の準備に正面に向き直ったのかなと…。

そのほかのポイントである「虫のきもち」ではハナバチがストローのような口で蜜を吸う場面に出会えました。トンボやチョウは花にとまったとしても人が近づくとすぐに飛び去ります。昆虫が花にとまっている虫を虫メガネで観察できること自体が、素敵な経験で、子どもも観察できるところに目をつけてポイントを作ったのは素晴らしいと思いました。

そしてもう一つのポイント「におい探検」では子どもがクサギの葉の匂いを嗅ぎ、感じたまま「ピーナツバター」「カフェオレ」「ゴマ」など言い始める大人も混じって、葉をちぎり、鼻にあて「ホントだ」と言わんばかりのしぐさを見せ、自分なりの答えを出そうとしているのが分かりました。子どもだましと思っている大人を正面向かせるものがあると思うでした。

探検ラリーは少しマニアックな6つのポイントがあって、ラリーに参加した子ども・大人は満足して帰っていました。

（松戸市 藤田 隆）



ハス探検